

Title	企業へのイノベーションの浸透(ナショナルイノベーションシステム(NIS)の進化と政策的対応)
Author(s)	西野, 壽一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 18: 259
Issue Date	2003-11-07
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6825
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

企業へのイノベーションの浸透

西野 壽一（株式会社日立製作所中央研究所所長）

イノベーションは企業の継続的な発展に対する必須要件のひとつであるが、その出発点のように生み出しあるいは獲得するかに加えて、いかにして企業活動に取り入れ価値を生み出すものとして定着させるかも大きな課題である。本報告では、以下の4つの視点から、「企業経営へのイノベーションの浸透」について論じる。

- (1)イノベーションに対する感度を高く維持する
企業の経営において、変化に対応する、あるいは変化を創り出すことは、競争に打ち勝つ機会を提供する。組織の外で起こることについて問題意識をどれほど強く持つことが出来るかで、感度が決まる。
- (2)組織内にイノベーションを尊重する文化を創る
変化や知的財産に対する経営者の態度、および、成果に関する個人へのフィードバックが重要である。
- (3)イノベーションによって目指すものを明確にし共有する
どのようなイノベーションを期待するかは企業・組織の目指す方向性との関連で選択される。その際の基準をある程度説明できるようにしておくことが構成員の活力を高めるためには重要である。
- (4)企業経営への貢献(成果)を明確にする
イノベーションが企業経営にどのように、あるいはどの程度貢献したかを明確にし評価をすることは、構成員(社員)が次のイノベーションに積極的に取り組むために役立つ。